

浅 田 賞



菅 野 猛 君
(東京大学名誉教授)
(職業訓練大学校長)

鉄鋼業における計測技術の開発

君は昭和 11 年東京帝国大学理学部物理学科を卒業し、ただちに住友金属工業株式会社に入社、その後、大阪大学教授、東京大学教授を歴任、昭和 48 年東京大学名誉教授の称号を受け、また職業訓練大学校長となり、現在に至っている。

この間鉄鋼業の計測技術の研究ならびに金属物理学的手法による鉄鋼材料の研究に関し多くのすぐれた研究成果をあげるとともに、斯界の拡大、発展に指導的役割を果し、また人材の育成につとめ、多大の功績を残している。

住友金属工業(株)在職中においては温度計測の重要性に着目して逸早くその研究を開始し、とくに溶鋼の温度測定については画期的な新技術を開発し、その現場実用化を行うなど多くの成果を挙げた。その後大阪大学在職中においても温度計測の新分野開拓に熱意をそそぎ特に研究、工場一体としての開発に努力して多くの成果を挙げ、この分野に新しい道を切り拓いた功績は多大である。また学術振興会第 19 委員会第 2 分科会(測温)の発足と同時に参加し、指導的役割を果し、その円滑な運営と研究進捗の軌道化に貢献した。現在なお主軸として活躍している。また、日本工業標準調査会委員など多くの委員を歴任し、斯界の指導啓蒙につとめた功績ははかりしれないものがある。

以上のように君は鉄鋼業の周辺技術の進歩発展に対する貢献はきわめて大であつて表彰規程第 12 条により浅田賞を受ける資格十分であると認める。

浅田 賞



国分正胤君

(東京大学名誉教授)
(武蔵工業大学教授)

鉄鋼スラグのコンクリート用骨材への適用

君は昭和 11 年東京帝国大学工学部土木工学科を卒業し直ちに東京府土木部に勤務、その後、東京帝国大学助教授、同教授を歴任、昭和 49 年東京大学名誉教授の称号を受けるとともに武蔵工業大学教授となり現在に至っている。又、昭和 49 年には日本コンクリート工業協会会長、昭和 54 年には土木学会会長を歴任している。

この間コンクリートの材料並びに施工に関する研究・教育における斯界の権威として多くのすぐれた研究成果をあげてきたが、コンクリート分野への高炉スラグの広汎な応用について早くから着目し、特にオイルショック以降スラグ利用の研究開発の推進、科学技術行政への参画を通じ鉄鋼スラグの利用研究、技術開発に多大の貢献をした。

東京大学、武蔵工大在職中を通じコンクリートおよび鉄筋コンクリート工学に関する研究指導にすぐれた功績をあげるかたわら、土木学会においては、常に指導的役割を果し、昭和 36 年以来コンクリート委員会委員長としてコンクリート標準示方書、高炉スラグ碎石コンクリート設計施工指針(案)などの改正制定に貢献した。

また鉄鋼業が推進したスラグ資源化活動においては、建材試験センターコンクリート用高炉スラグ骨材標準化研究委員会総合研究委員長、日本鉄鋼連盟コンクリート用高炉スラグ細骨材標準化研究委員会委員長などとして終始指導的役割を果し、鉄鋼スラグのコンクリート用骨材としての技術研究、標準化に努力し、斯界の指導啓蒙につとめた功績は、はかりしれないものがある。これら研究の結果 JIS 5011「コンクリート用高炉スラグ碎石」として鉄鋼スラグの工業製品としての位置づけが確立した。

一方、コンクリート技術の国際交流にも多面的活動を行い、特に自ら主催する日米科学セミナーにおいては、コンクリート技術における「省エネルギー省資源」のテーマのもとに高炉スラグ骨材、高炉スラグ微粉末、フライアッシュの活用をとり上げ国際的技術交流の推進をはかっている。

以上のように君は鉄鋼スラグの利用に関する学術上、技術上の進歩発展に対する貢献はきわめて大であつて、表彰規程第 12 条により浅田賞をうける資格十分であると認める。